



森林レンジャーがゆく (109)

眠っていた宝

「昔、馬頭刈山に茶屋があったんだぞう。茶屋をやっていたのは軍道の女性で、雇った人と氷や瓶ジュースを担いで登っていたんだよ。山頂では、山の湧き水で冷やしたジュースが飲めたんだよ。」

これは私が森林レンジャーの活動中にお会いした、軍道にお住まいの方から伺ったお話です。荷物を担いで標高884mの馬頭刈山に登っていた人たちが本当にいたのか、と半信半疑。後日、その方が当時の写真を探し出してくださいました。馬頭刈山山頂でニッコリしている女性と担ぎ手たちの白黒写真。さらに「石原沢に昔あった水車の写真だよ。」ともう一枚。「この水車はね、干したサツマイモや麦などを水の力を利用して杵でついて荒い粉にしたんだ。その荒い粉を石臼でひいて細かい粉にして団子など作って食べたんだ。水車は地域のみんなで共用していたんだよ。」と教えてくださいました。

馬頭刈山へ登る入口に石原沢があります。沢沿いには昔道があり、茶屋をやっていた人たちだけではなく多くの登山者も歩いたのでしょう。私が森林レンジャーとなった12年前、軍道地区の方々と復活整備をした思い出深い昔道。今では登山者だけではなく、この昔道を利用して市内の小学生に自然体験学習を毎年行っています。体験学習では自然の紹介だけでなく、地域の方から教えていただいた昔の記憶を次世代につないでいます。

市内の他の地域には、石原沢の水車とは用途の異なるものもあったと聞いたことがあります。昔の人が自然の力を上手く利用していたことを素晴らしく思いながらも、昔の暮らしは大変だったのだろうと想像します。だからこそ、自然と共に生きていたことがわかるこのような昔の写真やお話は、市に残る貴重な宝の一つだと感じています。

より良い未来が早く来ることを願いながら、教えていただいた記憶を胸にこの昔道を歩き続けたいと思います。(加瀬澤)

森林レンジャーあきる野 市が取り組んでいる「郷土の恵みの森づくり」を進める専門集団。尾根道の補修や景観整備事業等の調査、計画立案等を地域と協働で実施。市内で生息する動植物の調査や、滝・巨木等、地域資源の掘り起こしも行っている。

問合せ 環境政策課



昭和初期頃に撮影されたという
水車の写真